

ギニアは西アフリカに位置し、豊かな自然資源と多様な文化を有する。首都コナクリは国の政治、経済、文化の中心地としての役割を果たしている。特に同国はアルミニウムの原料となるボーキサイトの世界的な供給地として知られ、鉱業が主要な産業だ。

2014年に同国内でエボラウイルス病の大規模な発生があり、累計感染者は3814人に上った。この出来事により、保健システムの脆弱（ぜいじやく）性が明確になり、中央での検体の確定診断や感染拡大のアラート発信が未整備であったことが浮き彫りになった。

これを受けて、ギニア政府は強靱な保健システムの構築を目標に掲げ、特に感染症対策の強化を重要課題として取り組みを進めている。さらに20年3月からの新型コロナウイルス感染症の拡大は、同国の保健セクター

海外建設協会

プロジェクト便り

◆ギニア

国立公衆衛生研究所建設計画

戸田建設

感染症対策に貢献する公衆衛生研究所の全景



指導サイクル確立しノウハウ供与

において感染症対策強化が急務であることを突きつけた。

流行疾患動向監視サーベ

ンス業務や検査、全国の検査の

質の評価・監督、検査技師の継

続研修、感染症対策の研究を担

う国立公衆衛生研究所（INS

P）は、機材の不足や施設の狭

小から各業務で十分な質と量

が確保できない状況だった。

政府開発援助（ODA）の無

償案件として実施された本事業

「ギニア共和国国立公衆衛生研究所建設計画」では、INS Pでの病原体検査・研究および研修実施にかかる施設の増設と機材の拡充を通じて、ギニアにおける感染症の早期検知および拡大防止に寄与することを目的としている。

新施設（RC造2階建て延べ4083・24平方メートル）の計画では、バイオセーフティ2プラスの基準を満たす試験室や、医療従事者の育成のための研修施設を設置。現地の気候の特色である強い日差しを遮りつつ風を通すコンクリート製ルーバーを配備し、室内環境を

日本式の安全対策を積極導入



業務環境が改善された検査室

た。工程ごとの作業手順を作業グループのリーダーに教え込むサイクルを繰り返して、作業をシンプルに分解して各作業員に伝えることで、難しい工事を着実に進めた。また、安全活動では毎日の朝礼でのラジオ体操の実施や安全指導、新たな作業時の器具使用方法の説明、高所作業を安全に行うための脚立の使い方の指導などを実施。梁の配筋作業には日本式手順を導入するなど、安全性を高める工夫も積極的に取り入れた。

快適に保ちながらエネルギー効率を高める工夫も施している。戸田建設が施工を担当し、21年8月に着工した。建設場所は首都コナクリから約60キロ離れた地方のコヤ県。工事期間中、世界情勢の不安定さを背景とする物価の高騰や為替変動などの困難に直面。そのような環境下、現地の作業員約300人と日本人スタッフに加え、作業内容や現地の言語に精通した第三国出身のスタッフが工事に従事した。戸田建設が施工を担当し、21年8月に着工した。建設場所は首都コナクリから約60キロ離れた地方のコヤ県。工事期間中、世界情勢の不安定さを背景とする物価の高騰や為替変動などの困難に直面。そのような環境下、現地の作業員約300人と日本人スタッフに加え、作業内容や現地の言語に精通した第三国出身のスタッフが工事に従事した。

（建築グローバルPJ室工事部工事課へ作業所長・金田忠明）

